

浦上の街が赤く染まり

5歳のときの長崎の幼児被爆者である私は、被爆者手帳を持っている一人として、被爆の実相の証言活動に微力を注いでいます。私よりも高齢者や病弱者、そして何より死者たちはもう語れないのですから。

爆心地から3・5キロの坂の上にあるわが家は農家で、大人たちは外で働き、私や妹は疎開してきていた子や近所の子たちと、家の中をキャッキヤと駆け回って遊んでいたときでした。被爆弾がさく裂したのは、

青い空が真っ白に輝きぼう然と立ちすくんでいたら、猛烈な風で家具や建具、大きな仏壇まで倒れて、畳に突き刺さった

いま伝えたい

被爆者から

2015年・被爆70年
NPT再検討会議へ

〈12〉 幼児被爆者の役割 次世代へ

福岡市博多区

古崎幸恵さん(74)

さちえ

ガラスによる切り傷の痛さと恐怖で、壕内では子どもらの泣き声が響きあい、大人たちがくるまで絶えませんでした。

母は畑で背中を、父は疎開者のための部屋を造っているときに胸を熱線でチカチカと焼かれました。その夜、めっちゃめっちゃになった家の中にはお布団が敷けず、縁の下にゴザを敷いて寝ました。

高台の家から見る浦上の上空は、火の海となった街の炎で赤く染まり、夕焼けのような美しい色を醸しだしていました。生きながら焼かれていった人びとのことなど知る由もありませんでした。

防空壕の中、葉もなく

山手の方にあるわが家は延焼も倒壊もなく、だれ1人死とは関係なく幸いでした。

ところが、近所に住む14歳のいとこは、1・4キロ先の三菱兵器大橋工

場に学徒動員されていて、その日帰宅しなかったため、私の両親や親せきの人たちが探しに出かけたのでした。

原始野に黒い塊となつて投げ出された幾万、幾千のかけがえのない命。がれきの下の崩れた顔を一つひとつめぐりながら確認しましたが、見つからなかったのです。

3日目、伊良林国民学校の救護所にいたいところは、やけどもけがもなく戸板に乘せられて帰りましたが、すでに急性原爆症に侵されていて9日目には死んでしまいました。

発熱、紫斑、脱毛、下痢、出血、おう吐などの症状。B29の来襲に備えて防空壕の中に寝かされ、葉も治療もない中で苦しみぬいた9日間。裏山で茶毘に付された14歳の生涯はあまりにも残酷すぎました。

父も母もがんで死亡。妹は甲状腺機能低下症

に。今度は自分の番かと恐れ、持病をかかえながらも全力で被爆者運動にとりこんでいます。

NPT再検討会議にも

次世代への願いを込めた取り組みの典型が被爆柿の木の植樹運動です。被爆二世の種から発芽させ、大事に育てた三世の苗を14力所に。命、平和の大切さを学ぶ平和教材として、児童・生徒、教師に喜ばれています。昨年は学校、団体などへ累計22回語りに出かけました。

私が所属する被爆者の会博多区支部の新聞は毎月発行し、児童の感想文を連載していますが、これらすべてを安倍総理に読んでもらいたい、そんな気持ちでいっぱいです。1年生の文に「せんそうをしないためには、けんぼうをまもる」と、どれも打つものばかりです。

ふたたび被爆者をつくらないためには核兵器の廃絶しかなく、各地の友人・知人の力も借りて草の根で集めたアピール署名は、5000の目標を大きく超え8300に達しました。

4月、私はNPT再検討会議のニューヨーク行動に参加します。



著書『ヒバクシャPEACE TOUR』(遊緑社 1200円+税)を手に古崎さん